

令和5年度 海外移住と文化の交流センターの管理運営に対する評価票

1. 施設概要、指定管理者等

(1)施設概要(設置目的、施設内容)	海外移住の歴史及び意義の継承、地域に在住する外国人等との交流並びに国際的な芸術の交流を通じて、多様な文化が共生するまちづくりに資することを目的として、平成21年6月に開設。以下の3つの機能を併せ持つ複合施設。 ①希望と未知への船出の広場(移住ミュージアム機能) ②多文化との共生の広場(在住外国人支援機能) ③芸術を生かした創生の広場(国際芸術交流機能)
(2)指定管理者	海外移住と文化の交流センター共同事業体 【代表者】株式会社カワサキライフコーポレーション 【構成員】一般財団法人日伯協会（以下、「日伯協会」） 【構成員】特定非営利活動法人関西ブラジル人コミュニティCBK（以下、「CBK」） 【構成員】特定非営利活動法人芸術と計画会議（以下、「C.A.P.」）
(3)指定期間	令和3年4月1日から令和8年3月31日まで
(4)R5市支出額(単位:円)	協定締結額50,244,000円 決算額…………… 49,337,958円 (差額……………96,042円は修繕費として精算戻入)

2. 管理運営内容

(1)管理実施状況	5年度の状況
①施設の維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤1名を含む5名体制で施設の維持管理業務にあたった。 ・設備の保全や清掃業務は外部に委託し、法令点検や定期点検等を行った。 ・館内外の美観の維持に特に配慮し、館内清掃はもとより、正面広場の芝生整備、植栽など、来館者に好感を与えるための施設整備を積極的に行った。 ・他方で、改修から15年が経過しており、本館北側の外壁剥離や、屋上防水シート経年劣化による雨漏れの発生など施設の老朽化が目立つようになってきている。

<p>②施設の運営業務</p>	<p>○開館日数 308日 ○開館時間 午前9時～午後10時(移住ミュージアムは午前10時～午後5時) ○令和5年度の特記事項は以下のとおり。 ■希望と未知への船出の広場(移住ミュージアム) (1) 企画展 ・(7/1～10/1開催:1,279人) 「ブラジル日本移民115周年記念 多文化共生をめざす 日本のブラジルタウン」 ・(1/27～3/31開催:707人) 「真の国際化に向けて 近畿2府5県の多彩な取り組み」 (2) 常設展(移住ミュージアム) R3.8月より日本語・英語・ポルトガル語の3言語の音声ガイド(無料)開始) (3) 自主事業 ・日本人を対象としたポルトガル語教室、物販 など ■多文化との共生の広場(在住外国人支援) (1) 南米系日系人を中心とする在住外国人支援 ・日系人の生活相談支援:608件対応 ・日系の子どもたちに対する日本語学習支援教室・母語教室、就学支援 ・成人日系ブラジル人向け日本語教室 ・情報資料室の運営(学習に役立つ書籍収集・活用) (2) 交流事業(在住外国人、ブラジル学校・日系人団体、地域住民) ・アルゼンチン祭等の地域住民との交流イベントの実施 ・クリスマス会、サッカー教室の開催 (3) 自主事業 ・ブラジル・日本の子どもの絵の交流展の開催(日本8校、ブラジル76校) ・子どもの音楽交流会等の交流イベント多数実施 ・名古屋ブラジル総領事館による移動領事館開催支援 ■芸術を生かした創生の広場(国際芸術交流) (1) オープンスタジオ活動 ・アーティストの制作プロセスを公開する「公開アトリエ事業」を実施 :アトリエ12室、7,103人 (2) 企画展覧会を実施し、国内外のアーティストの作品を展示 :20回開催、6,790人 (3) 市内の他施設4館とのスタンプラリー連携事業の実施 (4) 自主事業 ・1Fスペースのカフェ運営・イベント実施:2,932人 ■3つの広場の連携事業 ・市内大学生と連携したYouTube企画 (R3年10月開設、登録者数132名、視聴回数5,991回(R6年4月時点)) ・中南米音楽祭:7/23、10/15、1/21の3回開催、計150名参加 ・ブラジル移民祭:131人 ・フェスタジュニナ(収穫祭):130人 ■その他 ・instagramでの発信(R3年4月開設:フォロワー757人) ・CBK理事長松原マリナ氏が死去(2024.3) ・来館者の利便性向上のため飲料自動販売機の設置 ・神戸観光局(R3加入)とともに施設PRを行っている</p>
<p>③その他の業務</p>	
<p>(2)利用状況</p>	<p>5年度の状況</p>
<p>①施設利用状況</p>	<p>・入館者数:令和5年度51,704人(対前年度比114.2%) 令和4年度45,258人(対前年度比114.3%)</p> <p>・新型コロナウイルスの影響を受けて、コロナ禍前に比べて減少しているが、神戸観光局へ入会することで施設の周知PRをするなど努力し、昨年度に比べ入館者数が増加した。 ・神戸観光局に加入しており、新神戸駅、三ノ宮駅、北野町の案内所に継続してパンフレットを持ち込み、PRしてもらっている。また、引き続き、市内大学生とC.A.P・CBK・日伯協会のコラボレーション企画として、移住センターにまつわる人や歴史を短く紹介するYouTube動画を制作し配信。 ・貸館対象施設の稼働率(コマ数方式、年間平均、カッコ内は前年) [全館トータル] 42.0%(66.4%) [1Fホール(南)] 44.5%(37.0%) [2F多目的室] 100%(100%) [2Fセミナールーム] 12.2%(13.5%) [3F小会議室] 9.2%(66.5%) [3F大会議室] 9.1%(66.5%) [3Fギャラリー③] 39.0%(100%) [4Fギャラリー①] 75.3%(100%) [4Fギャラリー②] 75.6%(100%) [5Fホール] 12.3%(14.2%)</p>

	②その他利用状況	・駐車場利用台数 令和5年度:3,926台(約13台/日) 令和4年度:3,852台(約13台/日)
(3)収支状況		5年度の状況
	①使用料または利用料金収入	[貸館事業]・活動支援室 令和5年度480,000円 令和4年度480,000円 ・会議室等 令和5年度409,500円 令和4年度491,900円 [駐車場使用料] 令和5年度959,500円 令和4年度931,100円 ※センターへの入館及び移住ミュージアムの見学は無料
	②指定管理者の収支状況	神戸市支出額 49,337,958円 使用料収入 3,626,595円
(4)その他		5年度の状況
	①行動指針に対する対応	・行動指針に則った対応をし、多文化共生及び地域活性化の拠点になるよう各事業を実施している。
	②来館者に関する特記	・国内で唯一現存する移住関連施設であることから、大学の研究グループ等による来館がある。 令和5年度:58大学(うち関西圏外29、海外5)のべ87回 令和4年度:60大学(うち関西圏外27、海外0)のべ100回 ・その他、自治体関係者、高校、中学、海外からの視察等

3. 主な提案内容と達成状況(再掲)

	提案内容(目標値など)	達成状況
①利用者数または利用率	・入館者数 53,000人 ・貸館稼働率 55%	・入館者数 51,704人(未達成:達成率97.5%) ※5月、新型コロナウイルスの扱いが2類から5類に変更となり、外出制限等の影響も完全になくなったこともあり、昨年度比14.2%増加した。昨年度:45,258人 ・貸館稼働率 42.0%(未達成)
②収入目標額	・貸館事業 380,000円 ・駐車場・・・目標設定なし	・貸館事業 409,500円(達成:達成率107.8%) ・駐車場 959,500円
③その他新たなサービス		

4. 利用者の満足度調査等

	5年度の状況
①満足度調査の実施内容	・調査方法:来館者にできる限り声をかけ用紙を交付し、記入を依頼。 ・調査期間:常時 ・回収件数:令和5年度551件(令和4年度738件) ・質問項目:来館目的、知った方法、来館回数、展示内容の評価、館内環境、スタッフの対応に対する評価、再訪の意向、同伴者の有無など ・イベント開催時は会場で配布・回収し、回収活動ができるだけ来館者に見える形になるよう工夫。
②満足度調査の結果	【施設全般】 ・来館目的(重複回答あり、カッコ内は前年) 移住ミュージアム:51(53)%、在住外国人支援:4(4)%、国際芸術交流:28(4)%、イベント6(25)%、貸館利用2(1)%、その他22(22)%、未記入3(5)% ・知った方法(重複回答あり、カッコ内は前年) HP7(11)%、観光案内所2(2)%、イベントチラシ8(7)%、インスタグラム1(1)%、新聞4(3)%、学校32(27)%、紹介24(23)%、通りがかり8(9)%、その他15(20)%、未記入2(6)% ・展示内容 とても良い:55(54)%、良い:28(29)%、普通4(5)%、あまり良くない:0(0)%、良くない:0(0)%、未記入:12(12)% ・再訪の意向 ぜひ来たい:50(48)%、来るかも:43(45)%、来ない:2(2)%、未記入:4(4)% ・スタッフの対応 良い:86%、普通:11%、悪い:0%、未記入:3%

	③利用者からの主な苦情, 意見とそれへの対応	<p>・利用者の意見の大半は、「展示内容やスタッフによる説明が分かりやすい」「日本とブラジルの関係を知らなかったので勉強になった」など大変好評であった。日系ブラジル人の訪問もあり、「自分の家族がブラジルに着く足取りを知ることができた」など感想もあった。</p> <p>・一方で、「この施設はずっと残して歴史として守ってほしい」「もっと多くの人に知ってもらいたい、知らない人が多く残念だ」など、施設の継続と広報に対する意見もあり、より価値あるわかりやすい展示と、SNSやYouTubeを活用した広報に力を入れていく。</p>
--	------------------------	---

5. 選定評価委員会の評価

管理運営に対する総合評価	<p style="text-align: center;">○AAA ●AA ○A ○B ○C</p>
所見	<p>移住の歴史を学ぶ場として社会見学・修学旅行での活用といった学校へのPRや文化財登録等、より多くの人に価値ある施設であることを知ってもらう取り組みを強化するとともに、満足度調査の分析、外部への貸館稼働率向上によって、多くの人に訪れてもらう工夫が必要。複合施設の難しさはあるが、移住ミュージアム、在住外国人生活支援、国際芸術という3つの機能がより連携した取り組みにも期待したい。</p>